

大学生防災 サバイバル 大地震で生き残るすべてを学ぶ

近い将来、発生が予測される「南海トラフ地震」。巨大地震が発生したとき「生き残るために何ができるのか?」をテーマに9月17・18日、大学生防災サバイバルが実施されました。



土のうを積む訓練



食事を食べさせあい、気遣いの心を養う



火おこしの方法を説明する鎌田さん(左)



ロープ渡り訓練

地域防災の即戦力となる人材を育成するために今年度から始まった防災サバイバル。8月に引き続き、2回目となった今回は大学生37人が参加。1日目は野外活動センターで火おこし、土のう積みなどの体験学習を、2日目は市保健所・消防合同庁舎でロープ渡り・起震車体験、応急手当で実技訓練などを行いました。

特別講師を務めた元横浜市消防局消防訓練センター体育訓練担当教官の鎌田修広さんは「災害現場では何よりもコミュニケーションが大切。どれだけ能動的に動け、他人を思いやれるかで結果が変わってくる。日ごろから有事に備え、気持ちに余裕を持ち、少しでも生き延びる確率を上げてほしい」と話し、参加した学生も真剣なまなざしで訓練にあたりました。

保存してください。いつかまた お役に立ちます

主な内容

- 松山市民文化祭美術展 入賞作品紹介……別刷
- 使用済み小型家電の回収ボックスを設置……2面
- 市民ガイド……3~7面
- 愛媛FCマッチシティ 松山市の日……8面

発行：松山市役所
編集：総合政策部シティプロモーション推進課
毎月1日・15日
☎948-6705 FAX934-2578
http://www.city.matsuyama.ehime.jp/

問(消)総務課 ☎926 9104・FAX 926 9144



高松 彩花さん
(枝松一丁目)

行動に移すことが大切
大学生防災サポーターの活動や将来の役に立つと考え、参加しました。災害時に口であれこれ言うのは簡単だけど、実際に行動に移すことが大切だと思います。土のう積みは大変でしたが、いざというときの大切な行動。これからも地域を守るためにできることをしていきたいです。



人同士のつながりが大切
矢儀田 和輝さん
(石風呂町)

消防士を目指していて、経験を積みたくて参加しました。鎌田さんの話で印象に残ったことは「デジタルでなく、アナログを大切に」ということ。いざというときは、人同士のつながり、助け合いといったコミュニケーション(アナログ)が大切。2日間で学んだことを友人たちにも伝えていきたいです。



ヒューマンチェーンを使った救助訓練